

あの子、ちょっと ナルシーよね！



このお話をステキな絵は、ニュージーランドに住む

トレース・ニールさんが描いてくれました。

また、東京に住む、西尾佐知子さんがお話を作る手伝いをしてくれました。

お話を書いたのは、田畑サンドーム光恵です。楽しんでくださいね。

むかし はなし
昔のギリシャのお話です。

ナルキッソスという少年しょうねんがいました。

かれ
彼はとてもきれいでした。だから、みんな ナル
キッソスだいすが大好きでした。でもナルキッソスは誰
も好きじゃありませんでした。かれ いじわる
彼はとても意地悪
でした。



ナルキッソスたちが住む森にエコーという妖精がいました。エコーもナルキッソスが大好きでした。

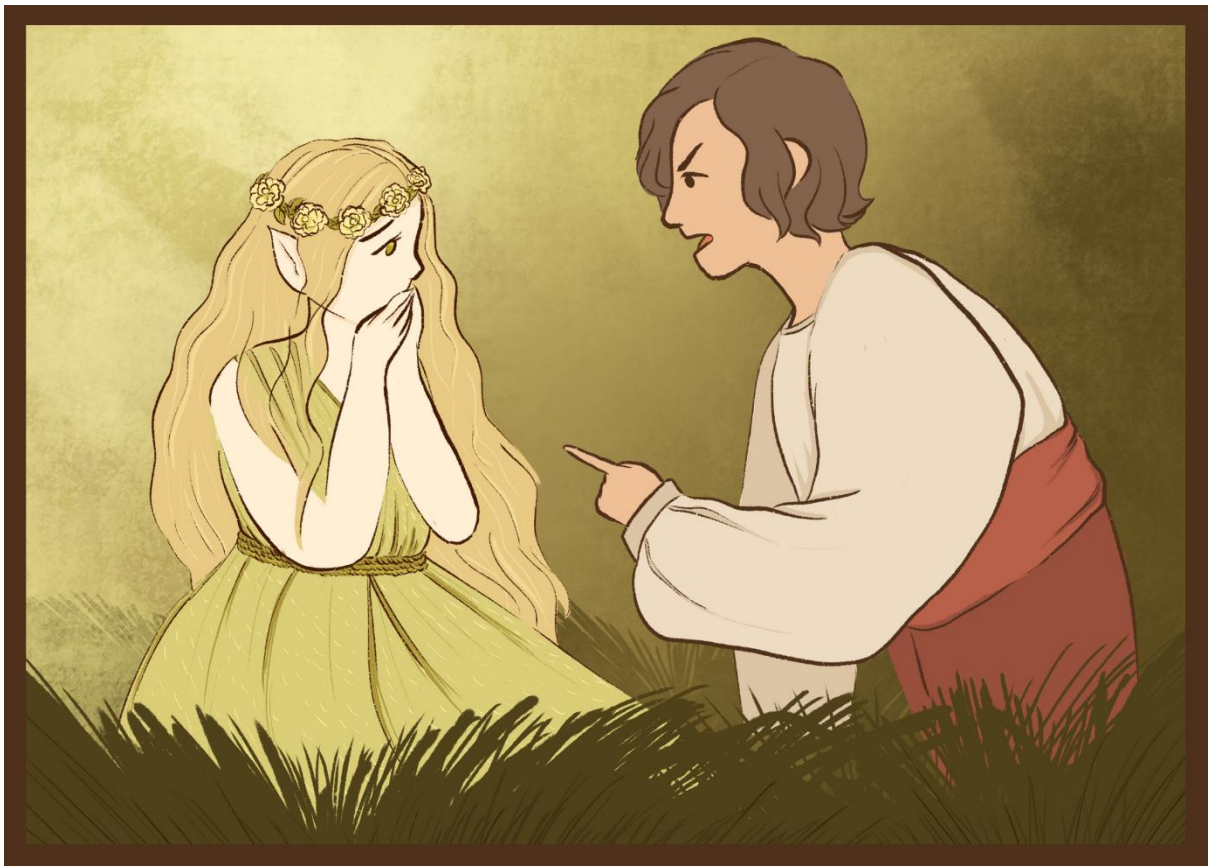
エコーはとてもおしゃべりでした。いつも他の人の悪いことを言っていました。

そこでヘーラーという神様は、エコーが話せないように魔法をかけました。そのため、エコーは大好きなナルキッソスに話せなくなりました。だから、ナルキッソスが話をしてきても、エコーは何も言えません。

ナルキッソスは怒ってエコーに言いました。

「おまえは何も話さないじゃないか。おもしろくないやつだ！」

エーコーはとても^{かな}悲しくなりました。そして何^{なに}
も^た食べられなくなりました。元^{げん}氣^きがなくなって、
最^{さい}後^ごにはエーコーの^{からだ}体^きは消えてしまい、^{こえ}声^{こえ}だけにな
ってしまいました。



さて、ナルキッソスはもう一人^{ひとり}の女^{おんな}の子^こにもい
じわる^{まいにち いじわる}をしていました。毎日意地悪^こをされて悔^{くや}し

くて、その女おんなの子こはネメシスという神様かみさまに頼たのみま
した。

「ネメシス様さま、みんな、きれいなナルキッソスが
大好きだいすです。私もナルキッソスわたしが大好きだいすです。で
も、ナルキッソスいじわるはとても意地悪わたしです。私も毎日まいにち
意地悪いじわるをされています。どうか、ナルキッソスに
罰ばつをあたえてください。」

ネメシスという神様かみさまはこの話はなしを聞いて怒おこりまし
た。

「わかりました。私わたしがナルキッソスまほうにこわい魔法
をかけましょう！」



つぎ ひ ところ
次の日、ネメシスはナルキッソスの所にやって
き い
来て言いました。

い じ わ る
「ナルキッソス、おまえはみんなにととても意地悪
だ。だから、わたしはおまえに ばつ あ た た か
罰を与える。あの高い
やま う え い
山の上に行け！」

か み さ ま か み さ ま い こ と き
ネメシスは神様です。神様の言う事は聞かなく
てはいけません。

そこで、ナルキッソスは山の上に行きました。

その日はとても暑い日でした。山の上に着いたナ

ルキッソスは、暑くて暑くてたまりません。そし

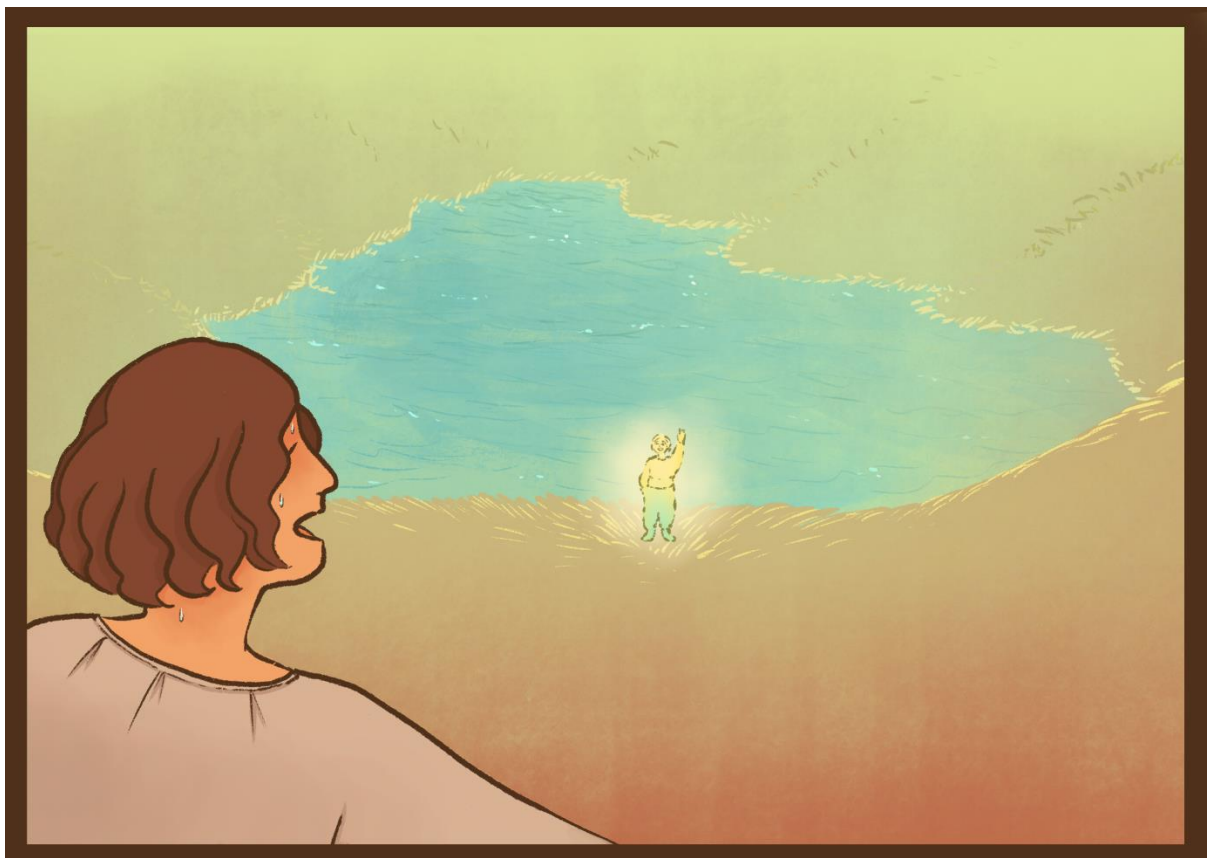
て水を飲みたくなりました。

山の上には池がありました。ナルキッソスはそ

の池の水を飲もうと思いました。池に近づいて、

池の水を見ました。するとそこにとてもきれいな

少年がいました。



「ああ、あなたはとてもきれいですね。ステキで
すね。^{わたし}私はあなたに^{こい}恋をしました。あなたのお名^な
^{まえ}前は何ですか？」

そのきれいな少年^{しょうねん}は何も言いませんでした。

だって、それはナルキッソスだったからです！

そうです。ナルキッソスは自分の顔^{かお}が池^{いけ}の水^{みず}に
映^{うつ}っているのを、他の人^{ほかひと}の顔^{かお}だと思ったのです。

ネメシスのこわい魔法^{まほう}にかかっていたからです。

それから毎日ナルキッソスは山^{やま}の上^{うへ}まで行っ
て、あの池^{いけ}に行きました。そして、池^{いけ}の水^{みず}に映^{うつ}
ている自分の顔^{かお}に話^{はな}しました。

「どうして名前^{なまえ}を教^{おし}えてくれないんですか？」

わたし
「あなたは私のことがきらいなんですか？」

わたし だいす
「私はあなたのことが大好きなのに。。。」

まいにちまいにち いけ みず うつ
毎日毎日、ナルキッソスは池の水に映っている

じぶん かお はな じぶん かお なに
自分の顔に話しました。もちろん自分の顔は何も

こた
答えてくれません。

かな
ナルキッソスは、だんだん悲しくなりました。

なに た よる ね
何も食べられなくなりました。夜も寝られなくな

りました。そして、だんだん元気がなくなり、病

き
気になってしまいました。

さいご いけ よこ し
最後にはナルキッソスは池の横で死んでしまい

ました。ナルキッソスの死んだ所にきれいな花が

さ はじ
咲き始めました。その花の名前は「ナルシス」と
い
言います。



さ～て、このナルキッソスの^{はなし}お話から、^{いま}今では
じぶん ^{だいす}自分を^{ひと}大好きな人のことを「ナルシスト」
とか「ナルシシスト」と^い言います。

つまり、「私わたしってきれいだよ！すごくイケてるわ！」と思おもっている人ひとのことですね。

そして、最近さいきんの若わかい人ひとは、「ナルシー」という言葉ことばを使つかいます。「やだ～、あの子こナルシーよね」という風ふうに。

自分じぶんのことことしか好すきじゃない人ひとは、みんなにやさしくありません。他ほかの人ひとに思おもいやりがあまりありません。だから、「ナルシー」はあまりいい人ひとじゃないでしょう。

あなたまわの周まわりにも「ナルシー」がいますか？

あなたは「ナルシー」じゃないですか？

やく
こ
(約913語)